

カリフォルニア稲作便り

農業自由化時代に、私のカリフォルニア農業体験が日本のコメ作り、コメ産業に活かせないか。

5月に播いたカリフォルニアのコメは、ほぼ順調に生育しています。いつもの年だと4月の下旬から順番に種播きが進み、5月下旬にだいたい終了します。種を播いた順に生育が進んでいきます。通常の年は雨が多い11月～4月を過ぎれば乾いた季節になるのですが、今年はずっと違いました。今年はずっと雨が本格化した5月15日から雨が降り出し、種播き作業を中断してしまいました。

播種の準備ができてから降られた雨であれば、すぐ水を入れて種播きができるのですが、そこまでにいたらなかった田んぼは大変でした。トラクターが入れるまで土が乾くのを待たなければならなかったからです。この雨は多いところで50mmほど降りました。雨がやんでも厚い雲に覆われ、時にはわか雨も続き、いつもの5月の晴天に戻ったのが19日でした。土壌状態や降雨量によっても異なりますが、トラクターが田んぼに入って作業が再開できたのが早いところ、21日でした。播種準備作業が一週間も遅れたことになりました。

5月12日の時点で約30%の作付けができていたと農務省の調査発表があったので、種播き作業がほぼ半分まで完了したところで一週間の中断期間ができてしまったことになりました。この遅れは後々の生育状況にもよりますが、品質・収量が少なからず悪い方の影響を与えそうです。

●日本向けに良質短粒種が増反

予想外の空模様によって、作付けされた品種の構成も変わってきました。作付け作業が遅れたというところは、生育期間が短縮してしまったことになり、どうしても遅くまかざるを得ない時は、収量を確保するために精米歩留まりや品質の落ち

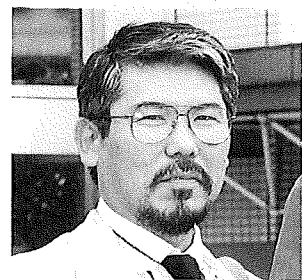
る「極早生品種」を選ばざるを得なくなり、しかし種子の量にも限度があり、そう簡単には作付け品種の変更はできません。やむを得ず無理を承知で通常の品種の作付けをすることになり、稲作農家は大きな心配をしながら稲の生長を見守ることになります。

米国農務省の作付け動向速報によると、今年の短粒種の作付けが平年に比べると3000エーカー増えているのですが、これはあきたこまちを中心とした日本の品種の増加によるものです。前に触れましたが、日本向けのコメ栽培が今年は増えるであろうと予測していたのが実際に数字で現れてきました。この数字は精米会社や商社などコメの日本向けあるいは日本以外のマーケットで短粒良質米を取り扱っているコメ業界人にとっては、非常に関心の高い数字です。そしてその作柄と品質はこれからの販売にとっても重要な要素になるからです。つまり競争相手がなを売ろうとしているのか、全体の作付け面積と生産量で具体的な販売のイメージをしていきます。

●生産者のコメ販売

カリフォルニアのコメ生産農家は玄米ではなく乾籾のまま販売するのが普通です。

籾の品質と精米歩留まり、そして一番大きな要因が品種ですが、それらによって生産者販売単価が決まります。生産者は、より有利に売れるコメをたくさん収穫する努力をするのはもちろんですが、販売面つまり誰がどのような条件でどのようなコメを買うのか、常に関心を持っています。通常、生産者の作った籾は精米会社か買い取り業者、農協も精米工場を持っており精米会社と同じ位置



たまき・いちろう／1952年12月郡山市生まれ。中学卒業と同時に就農。自作地の他、地域の作業受託を行った後、89年渡米。カリフォルニア州で稲作（約80ha）を開始。タマキ・ファームス・ジャパン ☎045-781-6426

づけになります。

カリフォルニアには現在二つの農協も含め合計15の精米会社があります。そこがカリフォルニアで生産される8割程度の籾を生産者と作付け前後の時期に買い取りの契約をします。残りの2割はコメの売買のみをしている会社やコメの卸業者、あるいは生産者のグループで販売をする所などが、買い取りの契約を結びます。そしてごくわずかのごく契約を持たずに作付けし、時期を見ながら販売する生産者がいます。

毎年2月頃にカリフォルニア・コメ業界で一番取引量の大きい農協組織がその年の生産・販売の計画を発表し、組合員である生産者に価格の動向などを説明します。これに対し精米業各社が独自の価格を生産農家に示し売買契約の締結を促します。

コメはいままでもそして新しい法律の中でもCCC（政府の穀物金融機関）のローンが適用されることになっています。これはその年に収穫された籾を担保に融資を受けられる制度です。コメの種別精米歩留まり・品質で融資額が異なりますが、大多数のカリフォルニア産中粒種は45kgの籾で約6ドル借りることができます。この融資は生産者本人あるいは本人が認めた第三者が金利をつけて返済しなければそのコメを動かすことができません。通常生産された翌年の8月いっぱいまで返済し

ないと、いわゆる質流れのような状況になり政府の持ち物になってしまいます。

ただしこの返済金は国際相場に連動しており、相場が低くなると返済金は借入額を下回っても、相場で返済すればよく金利も支払う必要がなくなっています。これはアメリカ産のコメが国際市場で価格競争をしやすいように作られた制度で、一般には見えにくい補助金と言えるでしょう。

CCCローンの話が長くなってしまいました。通常、生産者と買い手である精米業者・農協などの価格交渉は、このローンからどれだけ高く買いかという話になります。一般の中粒種（M-201、M-202などカルローズと呼ばれるコメ）は2〜3ドル、良質米中粒種のM-401などは3〜4ドル、短粒種の良質米などは8〜10ドルと価格帯ができます。これはそれぞれの業者が原料価格は低く抑え、販売時に有利にしようと試みるわけですが、生産者の方も各買い手の言い値を検討して契約しますので、相場から大きくはずれられることはありません。

しかし、一方ではブル計算という手法も多く用いられており、コメが生産された翌年にほとんどのコメが売れてからの単価の最終決定となりま



カリフォルニアで田植えをする。新品種の育種のために直播では雑草の発生や異種籾の混入が避けられないため田植えをした。下の写真は直播での発芽状態だが、写真では見えないかな？

す。日本のかつての自主流通米の清算払いとほとんど同じ方法だと思えます。このように生産農家は栽培計画と同時に進行で販売を行ない、稲作経営をしておりま

●カリフォルニア米のマーケット

カリフォルニアでは毎年籾ベースで約200万t生産しています。これがゴミと籾殻を取り除いて約150万tのコメと副産物として販売されています。

副産物は米ヌカが約15万t、ほとんどが家畜の餌として販売されその価格は家畜の飼料となる穀物価格に連動して取引されます。

ブロークンライス（碎米）30万tはほとんど加工用です。最大の購入者はビール業界です。碎米の粒の大きいものはコメ粉となり、さらに加工のためのプロセスを経てコメ食品になります。

ヘッドライス（完全粒）110万t（白米）には買い手との規格決定の中で、碎米の混入率が決められるため、いくらか碎米が増減しますが、毎年世界中に販売されています。昨年からは日本もその恒常的な顧客となり、昨年は生産量の20%近い19万t（玄米ベース）の販売となり大きな買い手となりました。日本以外では中東諸国が常に安

定して購入し続け、量は極端には増加が見えていませんがヨーロッパ諸国がそれに続き、そして中南米へと輸出がされています。

しかしなんと言ってもカリフォルニアのコメは国内の消費が大きく毎年約70%を加工品も含め消費しています。この量は年々増加しており、

特に品質のよい中粒種は他のコメより消費が増加しています。

これらのマーケットも簡単にできたものではなく、販売業に携わる各社がそれぞれの市場で世界のコメと競争しながらその地位を築いてきたものです。

世界で消費されるコメの大多数は長粒種であり、その中に中粒種の特徴を出しながら販売量をのばしてきました。オーストラリアの安いコメと競合するアジアのマーケットではコメの味を強調しながら販売しています。

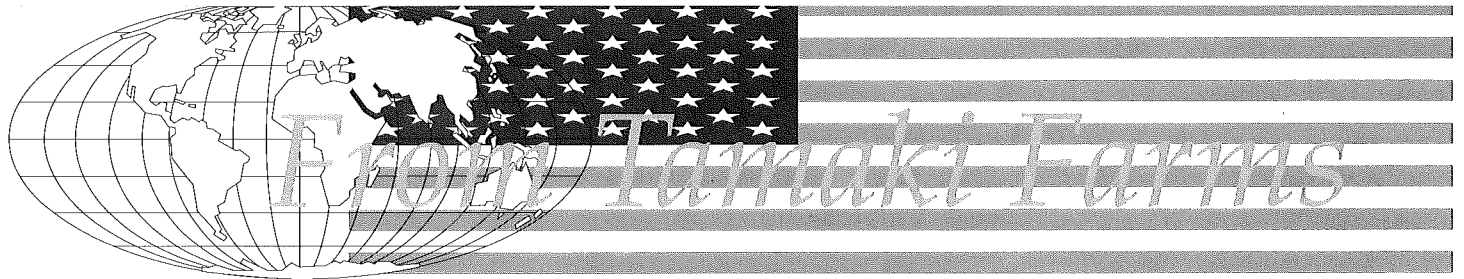
●研究開発が競争力の決め手に

生産者自身も安定した高品質のコメ栽培のために、自ら研究開発費に拠出をしています。これはカリフォルニア州ビッグスにある育種試験場の新品種開発費と栽培安定のための研究費にあてられています。その効果がカリフォルニアを世界でも有数の単位面積当たりの高収量産地にしました。良質米の研究にも力を入れており市場の要求に限りなく近い成果が出せるよう研究がすすめられています。

大きな農場になりますと、自ら育種家を雇用し新品種の開発や栽培方法の開発をしています。いままで有名なのは「国宝ローズ」と「松竹梅（もち）」を開発した国府田農場や、モチの品種を開発したデービス農場があり、そしていまはカリフォルニア米を一番多く扱っている農協FRCが良質米の研究開発のために専門家を雇用し本格的に研究を始めています。

コメの育種の研究開発分野でも自由な競争の中にあり、市場の要求に沿ったよいものを作ることが利益につながり、業界すべての向上につながることを実証されています。

販売も同様で、自由な競争があるからこそ同じ品種のコメでも販売の工夫次第で価格も異なり、有利に販売できるようしのぎを削っています。生



産も同様に今度の新しい農業法のもとで、利益の出せるコメ作りへの努力が生き残りを決めることになり。結果として市場性のあるコメの低コスト栽培が生まれ、より強い競争力を持つことになると思います。

●自由なコメ作りの姿を求めて

生産者ほどの様な動機でその栽培品種を決定して、どの様な要因が販売価格を支配しているのか。品種改良はどの様に改良課題を設定し、誰が研究開発を行なっているのか？

(いまになればごく当たり前のことだが) 以前の私にはこれらのことが理解できず悶々としておりました。この連載の初めに「私の考えるところをおいおいお知らせします」と書いたその一部がこれです。

資本主義経済の中にある一般の産業はごく当たり前に「経済の原則」で動いています。コメ作り(農業)だけはまったく別のように考えられていました。(いまでもそのように考えている方が多く居ると思いますが)

しかし実際に福島県でコメを作っていますと「コメ作り特殊論」がどうも腑に落ちずに、胸の中の大きな矛盾を感じざるを得ませんでした。

私もコメや農業生産に対し、保護も特別扱いもまったく必要ないとは思いません。コメ作りの果たす社会的役割は高く評価し、そのために必要なことは公的な資金(補助金)を使ってでもすべきだと思えます。

しかし過去に、問われるままに「コメ作りも自由経済のもとで自由に行ない自由に販売したらよい」と答えたら、「コメ・農業特殊論」の方々が袋叩きにあつた経験があります。

自由にコメを作り自由に売ることが市場を活性化させ産業を発展させる、この理屈が正しいことを知りたかったのがここでコメ作りをするきっかけでもあります。

「いつかは日本のコメも輸入自由化をせざるを得ないだろう」、「自由経済での稲作経営の手法を見いださなければならぬ」、「産業として生産されているカリフォルニアのコメ産業はどの様なシステムになっているのだろうか」、「ライバルであり、産業化の先輩であるアメリカの稲作から学ぶべきことがあるはずだ」

このような考えはコメ・農業が特殊であり、産業として成り立つはずがないと思ひこんでいる方々にはなかなか理解してもらえませんでした。

しかし、予測していた自由化の波は思いの外に早く訪れてきました。

その意味で、私がカリフォルニアで見たこと、得たことを少しでも日本のコメ産業にとって役立つことができればと思っています。

求められる講演でカリフォルニアの実情をお話したり、セミナーを開催して興味ある方へ情報を提供したり、内部資料として収集・整理している統計資料や現地情報をニューズレター形式でお届けしたり、農業実習生・研修生を受け入れて肌でコメ産業を感じてもらい日本での経営に活かしてもらおうを行なっています。

●粗放農業って本当なの？

先般、種播きや除草剤の散布作業をする飛行機にGPSシステムが付けられ、自分の位置を確認しながら作業をすることが増えてきたと紹介しました。

今度はカリフォルニアの水田にGPS搭載の新型コンバインが登場します。

自分の位置を確認できるGPSシステムがなぜコメの収穫に利用できるのかと耳を疑ったのです。が、紛れもなくGPSです。

コンバインは自分の位置を確認し、作業をした面積を計算するために使います。そして収穫した籾の量と水分センサーが位置情報と連動して、田んぼの面積当たりの収穫量が瞬時に計算され記録

できます。

これをどのように使うかはそれぞれの自由ですが、手っ取り早く役に立てるには次年度の肥培管理に使うことです。今年あるいは将来には毎年の記録が残せますので、田圃一枚ごとの特性と同時にピンポイントで田圃のどこがどうだったか結果が見えます。生育調査の結果と合わせ管理作業の記録と合わせれば、非常に精密な次年度の栽培計画が立てられることとなります。また実際には使ってみていないのですが、これがうまく行けば、いままでも実習生・研修生諸君が苦労していた坪刈り調査や葉緑素測定調査など細かい調査が楽になるでしょう。その分、機械で得た生育情報の整理・分析が忙しくなりますけどね。

アメリカの農業は大規模粗放だと、私もかつて教科書で学びました。一般的にはほとんどの方の理解ではないでしょうか？

(しかし、「大規模だから粗放」のではなく、「粗放でもそれに上回るメリットが大規模経営にはある」ということなのでしょう。粗放がよいわけではありませんが、それぞれの許容範囲を越えなければそれでよいのではないのでしょうか。)

しかし粗放農業を精度の高い農業へ変えようとする動きは必ずあります。いままでの認識は大きな誤解になりつつあるのが実態です。

ハイテク装置を搭載した機械類が田圃に入り、数々のデータを取りながら作業をしていきます。そのデータをもとに栽培者は栽培を行ない、経営者は作付けと販売の計画をマーケティングを見ながら決めていきます。もうこうなればとても粗放農業とは呼びません。ハイテク機械類を確実に生産性の向上につなげ、ハイテクを利用した情報収集から経営を決定します。

蛇足ですが、このハーベスターもエアコンと携帯電話の入ったキャンピングですので、乗りごこちは勿論快適です。